

ふじ産野菜から始まる地域活性化ストーリー

活動の経緯

開校当初から農業教育を取り入れ、地元農家と連携し休耕農地を借用、農産物の生産・販売を実践的に行い生徒の企業就労の支援に取り組んでいる。

また、地元からの期待も高く、うどん店からは「最近、地元特産品で町おこしの1つであるモロヘイヤの生産者が減少している。栽培、提供して欲しいとの要望を受け」取り組んだ。

活動の概要

知的障害のある生徒がモロヘイヤを栽培。飲食店等へ提供し、商品開発などで農福連携を推進する。



モロヘイヤ栽培



モロヘイヤうどん

活動の成果、実績等

- ①休耕地を活用した特産品モロヘイヤの栽培：地元農家の休耕地を継続的に活用し、耕作放棄地を防止するとともに生徒自らが農作物を生産することで達成感や自信を身につけることが出来ている。また、実際の農作業を通じて働く力が育っている。
 - ②飲食店と連携し、農福連携モロヘイヤを活用した新商品開発：生徒自ら生産したモロヘイヤを提供し、地元飲食店とモロヘイヤを活用した新商品開発（モロヘイヤうどん）に取り組むことで地域の活性化につながった。
 - ③地域の魅力発信！：羽生市の特産として「モロヘイヤうどん」の各メディアからの取材を受けている
 - ④羽生市の特産品としての認知度up！：小中学校給食への提供も行っており、羽生市の特産品として地元児童生徒への周知活動にも繋がっている。
 - ⑤小学校と連携：地元小学校と連携し、野菜の栽培・管理・収穫体験を取り入れ、農業技術科の生徒が担当し児童への指導を行った。生徒たちの自信につながった。
 - ⑥資格取得：生徒個人の障害に応じた判断をし、取得可能な資格にチャレンジしている。実績として、フォークリフト運転技能講習（1t以上）、小型車両系建設機械など取得。
 - ⑦農業法人・企業への就労：進路開拓で県農業技術研究センター次世代技術実証普及担当と連携し、農業の知識・技能を習得した生徒を農業法人・企業での現場実習（実践実習）等を実施した。農業法人・企業への就労も増加した。
- 将来、農業分野での担い手不足解消へつなげていく。